

## 第8編 しゃこたん 積丹半島弾丸バス巡り



大村 猛

OHMURA Takeshi

川崎地質㈱

大谷石採取場跡地観測所



### 0泊3日のバスの旅

前回は、九州の路線バスに乗る旅について紹介しましたが、今回は、北を目指して北海道の積丹半島路線バスで巡る旅を紹介します。

今回の旅では、栃木から北海道へのアクセスをどうするか悩みましたが、札幌周辺の宿が高くなっていたことと、フェリーとバスを組み合わせるとお得に旅ができる切符を見つけたので、使ってみることにしました。

八戸と苫小牧を結ぶ「シルバーフェリー」(川崎近海汽船)は、所要時間7時間15分～8時間30分で、夜行便をうまく活用することで宿代わりにもなります。運賃は、最も安い2等で大人片道5,600円(以下価格はすべて2023年8月現在)とかなり安いのですが、苫小牧と札幌を結ぶバス「高速とまこまい号」の片道乗車券(通常大人1,450円)がセットになった「札幌・八戸なかよしきっぷ」<sup>1)</sup>が大人片道6,500円と550円お得でしたので、往路にはこちらの切符を使いました。

宇都宮から八戸までは、旅行初日の朝から普通・快速電車を10本乗り継ぎました。電車移動については、期間限定ですがJR東日本・北海道やIGRいわて銀河鉄道、青い森鉄道などの普通列車、快速列車が11,330円で7日間乗り放題になる「北海道&東日本パス」を使いました。参考までに、宇都宮から八戸まで普通列車

に乗ったときの片道運賃は10,260円で、帰路に使うことも考慮すると半額近くお得といえます。八戸駅到着後、いつもお世話になっている駅前のホテルに併設されたレストランが生憎貸切営業だったため、居酒屋にて夕食を摂り八戸駅からのバスを待つことにします。



宇都宮から八戸までは普通・快速列車を乗り継ぎました  
(青い森鉄道701系 臨時快速青森・盛岡ライナー 八戸駅にて)

八戸港フェリーターミナルへの連絡バスは、朝と夜に1便ずつ出ており、朝の便は中心街ターミナル始発ですが、夜の便は八戸駅が始発で中心街と本八戸駅を経由します。やってきたバスには「南部バス」と書かれていました。南部バスは、青森県八戸市と三戸郡から構成される三八地方のバス輸送を担ってきました



八戸駅からフェリーターミナル連絡バス  
(南部バス (岩手県北自動車南部支社),  
いすゞエルガミオ SKG-LR290J1, 2015年式)

が、2017 (平成29) 年3月1日に隣県の岩手県北自動車に事業譲渡が行われ、現在は岩手県北自動車南部支社によりバス事業が行われています。バスは39分かけて八戸港フェリーターミナルに到着しました。

八戸港からはフェリーで北海道を目指します。札幌・八戸なかよしきっぷでは、差額を支払うことにより2等寝台等にグレードアップが可能です。私も個室



「シルバーエイト」からの景色



シルバーフェリー「シルバーエイト」で苫小牧西港に上陸

の2等寝台Aを予約しており、八戸港を22:00に出港した「シルバーエイト」は翌朝5:53に苫小牧西港に到着しました。

## バスで積丹半島一周

苫小牧フェリーバス停から発車する札幌行の高速バスを待っていると、先行する苫小牧駅前行のバスがやってきました。このバスは、2012 (平成24) 年4月1日に道南バスにバス事業を全面移譲して廃止された旧苫小牧市交通部から引き継がれた車両で、今回の旅で見かけたバスでは最も古い1996 (平成8) 年式でした。道南バスへの移譲から11年が経過していますが、広告ラッピングがなされていない正面に旧苫小牧市交通部時代の塗装が残っていました。



苫小牧港から苫小牧駅前に向かう道南バスは旧苫小牧市交通部の引き継ぎ車両 (日野ブルーリボン KC-HU2MPCA, 1996年式)

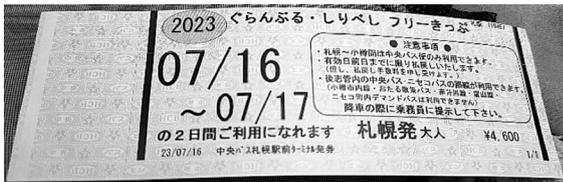
苫小牧駅前行のバスが発車した後、札幌駅前ターミナル行の「高速とまこまい号」がやってきました。こちらは2019 (令和元) 年式と比較的新しい車両でした。6:46に苫小牧フェリーを発車したバスは、始発からほぼすべての座席が埋まり、途中の停留所からは通路の補助席も使って満員の乗客を乗せたバスは定刻より11分遅れて2時間3分をかけて8:49に札幌駅前ターミナルに到着しました。

ここから先の目的地に向かうため、札幌駅前ターミナルの窓口で「ぐらんぶる・しりべしフリーきっぷ」<sup>2)</sup>を購入しました。こちらは、後志管内 (小樽以西) の北海道中央バスとニセコバス (小樽市内線等の一部路線を除く) が2日間乗り放題になる切符で、札幌発の



苫小牧フェリーから札幌駅前ターミナルに向かう「高速とまこまい号」(三菱エアロエース 2TG-MS06GP, 2019年式)

場合は、札幌とフリーきっぷエリアを結ぶ高速バスを往復で利用することができます。大人料金は小樽発が3,800円、札幌発が4,600円です。



今回の旅で使用した「ぐらんぶる・しりべしフリーきっぷ」



札幌駅前ターミナルに入ってきた北海道中央バス「高速しゃこたん号」(いすゞガーラハイデッカー 2TG-RU1ASDJ, 2018年式)

早速、札幌駅前ターミナルに入ってきた「高速しゃこたん号」に乗り込みます。高速しゃこたん号は、

札幌と小樽、余市、<sup>ふるびら</sup>古平、<sup>びくに</sup>美国を結ぶ高速バスで、4/15～9/30の期間限定で美国から通常はローカル便のみ運行の積丹余別、さらに路線バスが運行されない<sup>かむい</sup>神威岬まで1日1往復のみ延長運行します。札幌駅前ターミナルをほぼ満員で9:35に発車したバスは、美しい日本海を眺めつつ、途中の道路渋滞の影響により33分遅れの13:21に終着神威岬バス停に到着しました。



積丹町を走る「高速しゃこたん号」から眺める日本海



終着の神威岬バス停に到着



各社のバスが駐車場に勢揃い

神威岬のバス駐車場には、ここまで乗ってきた高速しゃこたん号の他に、北海道中央バスの定期観光バスや時計台バスなどの貸切バスが並んでいました。

神威岬は、駐車場から展望台まで徒歩で約8分、岬の先端までは徒歩30分以上かかります。次に乗る「終バス」の発車時刻が14:31のため、滞在時間が33分



神威岬の先端はまだ先ですが、次のバスまであまり時間がなさそうなのでここで引き返しました(笑)

短縮されて70分になってしまったので岬の先端に行くことが困難になったのと、すっかり曇天になってしまったため展望台に行くのも微妙になり、さらにここで食事をしておかないとこの先しばらく食事を摂れる場所がなくなってしまうため、今回は食事を最優先にして写真を1枚だけ撮って駐車場に引き返しました。

名だたる観光地のため、食事も、うに丼やいくら丼など高級なものが主体でしたが(苦笑)、昔は積丹半島でたくさん獲れた魚であるにしんの蒲焼丼がありま



昼食はにしん蒲焼丼

したので食べてみました。おいしかったです。

神威岬からは、高速しゃこたん号でそのまま戻らずに岩内ターミナルに向かうバスに乗ります。これから乗る神恵内線は、通常は岩内から泊村を通って神恵内村の川白バス停を結んでいますが、高速しゃこたん号の神威岬延長運行期間に合わせて1日1往復のみ神威岬まで延長運行されています。なお、神威岬では高速

しゃこたん号から岩内行のバスには乗継可能ですが、岩内発のバスが神威岬に到着する前に札幌行の高速しゃこたん号が出発してしまうため、逆方向の乗換はローカル便に乗って小樽駅前まで行き、札幌駅前ターミナル行の高速おたる号に乗り換える形になります。



神威岬から岩内バスターミナルに向かう北海道中央バス(いすゞエルガLTワンステップ KL-LT233J2, 2002年式)

このバスは、中型バスとほぼ同じ約9mの短めな車体長ながら、大型バスと同じ約2.5mの車体幅を持つ9m大型バス「エルガLT」で、2005(平成17)年に生産が終了された珍しいバスになります。

14:31に神威岬を発車したバスは、「日本海追分ソーランライン」を構成する国道229号線を走ります。先ほどまで乗っていたバスと異なり、乗客はまばらでした。途中、見る角度によっては岩の中に穴が開いたところが見える「窓岩」などを眺めつつ、ほぼ定刻の16:08に到着岩内ターミナルに到着しました。



日本海追分ソーランラインを走るバスから見える「窓岩」

岩内ターミナルは、1985(昭和60)年7月1日に廃止された旧国鉄岩内線岩内駅跡地に建てられました。ここからは、「高速いわない号」で札幌に向かいます。



岩内ターミナル周辺には旧国鉄岩内線の岩内駅がありました

岩内ターミナルを16:45に発車したバスは、共和町、仁木町を通過して余市町で再び日本海側に抜け、往路で通ったのと同じ道をたどり小樽に立ち寄って6分遅れの19:24に札幌駅前ターミナルに戻ってきました。



余市町を走る「高速いわない号」から眺める日本海



札幌駅前ターミナルに到着した北海道中央バス「高速いわない号」  
(日野セレガ ハイデッカ2TG-RU1ASDA, 2019年式)

札幌駅前ターミナルは、1978（昭和53）年9月1日に国鉄バスターミナル跡地に建設された札幌ターミナ

ルビル（札幌エスタ）の1階に設置，供用開始されて以来，現在まで使用されてきましたが，市街地再開発事業によって2023（令和5）年8月31日に札幌エスタが閉館，同年9月30日にはバスターミナルが閉鎖されて新しい「札幌駅交通ターミナル」の建設が完了する予定の2028（令和10）年度まで，札幌駅周辺の路上に設置した仮設バス乗降場にて運行されることとなります。<sup>3)</sup>

今回は，45年の歴史に幕を閉じる札幌エスタと札幌駅前ターミナルに敬意を表して，札幌エスタ内にある「札幌ら〜めん共和国」で夕食にしました。



8月31日限りで閉館となった札幌エスタ  
1階は9月30日で閉鎖される札幌駅前ターミナルになっています



札幌エスタ（2023年8月31日に閉館）内の札幌ら〜めん共和国



札幌ら〜めん共和国にて夕食（みそラーメンと目玉焼きご飯）

札幌駅前ターミナルからは，この日乗車した最後のバス「高速とまこまい号」で苫小牧に戻ります。バスは大勢の苫小牧方面に戻る客とフェリーに乗る客を乗

せて21:00に出発し、ほぼ定刻の22:52に終着苫小牧フェリーに到着しました。



苫小牧フェリーに到着した北海道中央バス「高速とまこまい号」  
(三菱エアロエース LKG-MS96VP, 2012年式)

## 家に帰るまでがバス旅です

苫小牧からは、往路で乗ったのと同じシルバーフェリーを利用しました。帰りは「シルバーティアラ」という2018(平成30)年に就航した船で、往路に乗った2013(平成25)年就航の「シルバーエイト」とは定員や客室配置等の仕様が異なります。2等船室の他に個室や寝台があり、この日は2段ベッドの2等寝台Bを利用しました。

23:59に苫小牧西港を出港した「シルバーティアラ」は、定刻より少々早い7:17に八戸港に到着しました。八戸港から八戸フェリーターミナルへは、バスで移動する大勢の乗客を捌くために下船規制が行われ



八戸港とフェリーターミナルを連絡する送迎バス  
(シルバーフェリー、日野レインボー)

ていたため、しばらく船にとどまり下船を待つことにします。ようやく下船の順番になり、降り立ってみると一台の送迎バスが待っていました。3~4分ほどでフェリーターミナルに到着しましたが、さしずめ空港ターミナルと飛行機を連絡する空港内のバスのような感じでした。

八戸フェリーターミナルからは、盛岡に向かう「特急八盛号」に乗車します。往路で紹介した「札幌・八戸なかよしきっぷ」の仲間として、「札幌・盛岡なかよしきっぷ」という切符も発売されています。この切符は、札幌-苫小牧の高速バス乗車券、苫小牧-八戸の2等乗船券と八戸-盛岡の高速バス乗車券がセットになって8,400円で購入でき、八戸フェリーターミナル-盛岡の大人片道運賃が2,500円なのでバラバラに買った場合の合計9,550円よりも1,150円お得に乗ることができます。



八戸フェリーターミナルから盛岡に向かう  
南部バス(岩手県北自動車南部支社)「特急八盛号」  
(いすゞガーラハイデッカー PKG-RU1ESAJ, 2010年式)

八戸フェリーターミナルを8:00に発車したバスは、途中八戸中心街のラピアバスターミナルや東北自動車道の畑パーキングエリアに停車した後、定刻より4分ほど遅れて11:02に盛岡駅西口に到着しました。バスは引き続き県庁・市役所前を通って盛岡バスセンターまで運行されますが、私はこの後宇都宮まで列車を乗り継ぐため、盛岡駅にて下車しました。

盛岡からは、往路と同様に北海道&東日本バスを利用して列車8本を乗り継ぎ、宇都宮駅から終バスで自宅最寄りのバス停に到着、三連休の弾丸旅が終わりました。

## おわりに

今回は、7月の三連休にフリーきっぷなどを利用して北海道積丹半島をバスで巡る旅を行いました。今回乗車した神威岬周辺の路線バスは、今年9月末に積丹線の一部区間（美国－積丹余別）<sup>4)</sup>の廃止と2024（令和6）年9月末には神恵内線の廃止が予定されており、今後このようなバス旅を行うことが困難になるおそれがあったため、乗ってみることにしました。積丹半島から眺める日本海がとても美しく、満足のいく旅となりました。

最後までお読みくださりまして、ありがとうございました。

## 【参考文献】

- 1) なかよしきっぷ, <https://yoyaku.silverferry.jp/lp/nakayoshi.html>
- 2) 北海道中央バス, 【札幌発着】ぐらんぶる・しりべしフリーきっぷ, <https://www.chuo-bus.co.jp/main/setticket/index.cgi?ope=det&n=122&r=10&a=0>
- 3) 札幌市, 札幌駅バスターミナル一時閉鎖について（バス乗降場の移転について）<https://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/kasetsubus.html>
- 4) 積丹町, 議会でより, 第91号, 令和5年3月, <https://www.town.shakotan.lg.jp/contents/d988bb4425c921c41e382a159d97663967419642.pdf>

# 非開削技術 広告掲載のご案内

発行年4回：4月・7月・10月・1月の1日発行  
 広告サイズ： 1頁＝縦255mm×横180mm  
 1/2頁＝縦120mm×横180mm

### 広告のお申し込み・お問合せ

非開削技術 編集室  
 (株)LSプランニング .....  
 Tel 03-5621-7850 Fax 03-5621-7851  
 発行 (一社)日本非開削技術協会 .....  
 Tel 03-5639-9970 Fax 03-5639-9975

## 環境にやさしい非開削技術

### ■ 非開削技術 広告掲載料金（会員価格）

掲載場所	サイズ	刷色	掲載料金
表1	1頁	カラー	220,000円
表2			308,000円
表3			275,000円
表4			352,000円
後付	1/2頁	モノクロ	49,500円
	1頁		77,000円

※広告掲載料金は1掲載当たりの金額です。（消費税込）



### 広告のお申し込み・お問合せ

(一社)日本非開削技術協会事務局 .....  
 Tel 03-5639-9970 Fax 03-5639-9975

### ■ 工法ナビ バナー広告掲載料金

掲載場所	掲載期間	掲載料金
TOPスペース	6ヶ月	66,000円
技術区分内スペース	上半期（4月1日～9月30日）	19,800円
	下半期（10月1日～3月31日）	

※広告掲載料金は1掲載当たりの金額です。（消費税込）